

ダンス活動を通じた人との豊かなかわり

中田圭子

共同研究者：吉川京子(金沢大学教育学部助教授)、赤地志津子(同大学院生)

1. はじめに

高い天井に舞い上がるカラフルな手作りバルーン。その下には子どもたちの笑顔が輝いている。1学期の活動の中でバルーンを楽しむ子どもたち。一人一人の身体から喜びが満ちあふれていた。友だちと手をつないだり隣同士に座っていたり。周囲の人を感じながら仲間と共に活動を楽しんでいる。

「言葉なんていない、この中にいるだけで何だか楽しいんだ。」そんな子どもの声が聞こえてくるようだ。この活動も好きだし、友だちといるこの瞬間も好き。いろいろな音楽にのせて身体を動かしてみよう！そんなことを思い描きながら取り組んだ集団活動(ハッピータイムという名称)の授業「バルーン&ムーブ」である。

2. テーマ設定の理由

中学部は、1年生6名(男子4名、女子2名)2年生6名(男子2名、女子4名)3年生6名(男子6名)計18名で構成されている。教師とならかわれる子や、子ども同士でかわれる子もいるが、自分から一方的にかかわるだけだったり、指示されることが多かったりする状況である。また、人の隣に座ることを拒む等、特定の相手としかかわれない様子も見られる。このように、人とかかわっていても、必ずしも自分の思いが伝わっている、または相手の思いを理解しているとは限らない。そこで、人との豊かなかわりができるような支援が必要であると考えた。

そんな子どもたちが、みんなで楽しく活動に参加するためには、五感を刺激し、身体を介してかわることが有効だと考えた。そして「教師が音楽に合わせて身体を動かす中で、子どもたちも教師の方に注意が向き、身体を動かしたくなってくる」そんな環境を作りたい。

音楽やリズムに合わせて子どもが身体を動かしたくなる、その気持ちを教師が受け止め、そして教師と一緒に身体を動かしていくうちに、子どもと教師が一つになっていく。子ども同士一緒に身体を動かしていくうちに、友だちとの気持ちが一つになっていく。そんな体験を重ねていくことで、教師や友だち、いろいろな人とつながっている心地よさを味わえるのではないかと考える。このような人とつながる体験をコミュニケーションの基盤であると考え重要視している。また、このテーマを設定した理由の一つに、私自身が趣味としてダンス活動にかかわっており、子どもたちと楽しさを共有できることもある。

1学期に子どもに人気だったバルーンの活動を発展させ、「バルーン&ムーブ」と名づけ2学期の活動に取り入れた。「バルーン&ムーブ」を通して、子どもと教師、または子ども同士でかわる体験ができる活動になるよう願ってこのようなテーマを設定した。

3. 活動

(1) 活動時間

2 学期：月曜日 5 限目 集団活動「ハッピータイム」の一部

ダンス活動「バルーン&ムーブ」(約20分)

(2) 目標

- ・思い切り自己を開放し、みんなと一緒に活動することの楽しさを味わう
- ・友だちや教師とかかわる力を育て、互いに気持ちを通じ合う心地よさを知る

(3) 内容

活動	活動内容	ねらい
1 集まれのバルーン	散らばっている状態から中央に集まり簡単なバルーン操作を行い、最後は円になって座る	楽しい気持ちで活動に集まる みんなの顔が見られるように円になる
2 手拍子 足拍子	円になった状態でリズムに合わせて手拍子や足拍子を行い、隣の人の肩や背中を叩く 子どもが先導する動作を行えばそれを取り入れていく	身体でリズムを感じる 教師や友だちの動きに注目する 一緒に身体を動かしたくなる 一体感を味わう
3 123...20 &手拍子	「ワン、ツー…」と教師の後に声を出すなど、教師や友だちの声を聞く	曲に合わせて声を出すのを楽しむ 繰り返しのリズムを楽しむ 教師や友だちの声に注目する
4 ムーブ	歩く ギャロップ 足音を立てずに歩く 走る スイング ジャンプ 6つの動きを中心に ペアになって、自由に動く *ペアになるための 手段として布やビニール袋を用いる	全身を使って自由に動く 動きの躍動感を身体で感じる 友だちや教師と一緒に動きながらお互いを感じ合う 動きに伴って、布のなびく様子や空気で膨らんだビニール袋の変化を感じて楽しむ
5 バルーン	1 学期、子どもに人気があったので継続 「トップ・オブ・ザ・ワールド」の曲に合わせてバルーンをみんなで動かす	バルーンと共にみんなで動く一体感を味わう 布の動きや風を感じる
6 リラック スタイム	背中合わせになってゆっくりと動く 横になった状態で身体をゆっくり動かす 等、静的な活動を行う	友だちや教師と身体を触れ合い、相手を感じる 高まった気持ちを落ち着かせる

4. 実践

中学部の生徒18人全員を対象に指導者6名(○中田、○赤地、川井、河野、野尻、尾山)で、主に体育館(6, 7, 8 回目は都合により高等部ホール)で活動を行った。

回数	日	工夫した点、改善点
1	9月6日(月)	音楽を感じて動いた
2	9月13日(月)	赤地氏が主導者で多様な動きを試みた
3	9月27日(月)	隣の人の肩を叩く、膝を叩くなど、かかわりのある活動を取り入れた
4	10月4日(月)	頭の上で手拍子をしながら歩き、全身でリズムを感じるようにした
5	10月18日(月)	バルーンを手だけではなく、全身で大きく動かすようにした
6	10月25日(月)	交互ジャンプなど相手を意識する動きにも挑戦 列車のように先生や友だちに繋がって動いた
7	11月1日(月)	忍び足でまわりを見ながら歩き、友だちを意識するようにした
8	11月8日(月)	手をつないで歩く等、触れ合いを感じるようにした
9	11月22日(月)	ムーブではペアになってかかわって動きやすいように、布を使用した
10	11月29日(月)	布を使って、ペア活動をした 活動の最後では、言葉がけを子どもに任せた
11	11月6日(月)	学生の参加が多く、子どもたちと1対1になれる環境なので、ムーブでは二人で布を持って走ったり、揺らしたり、相互にかかわりあいながら動いた
12	11月13日(月)	吉川氏が主導者でみんなと動く *次ページ参照
13	12月20日(月)	ビニール袋を使って、ペア活動をした

*12回目 吉川氏が工夫した点、改善点

バルーン

- ・ゆっくりとバルーンを上下に動かしバルーンが大きく膨らむのを楽しむと共に、全身で大きく伸びたり縮んだりしてバルーンと一体になって動くことを楽しむようにした
- ・バルーンを持って真ん中に集まったり広がったりする時に、音楽に合わせてステップを踏むのではなく、さっと集まったり広がったりして動きの流れを楽しむようにした
- ・バルーンをみんなで引っ張り合った状態で、片手を離してまわり、だんだん速くしていきスピード感を楽しむようにした

ムーブ

- ・ビニール袋（片側を切り開いたもの）を使用し、二人で向き合ってゆっくりと揺らす、高く上げその中に二人で縮みながらそおっと入る、二人で持って走り空気を感じる等、相手と一緒に動き続けながら相互に感じ合えるようにした
- ・それぞれの曲の長さを2倍にし、動きの躍動感を身体で十分感じられるようにした

5. まとめ

(1) 子どもたちの活動への参加

図1. バルーンに参加している割合の変化

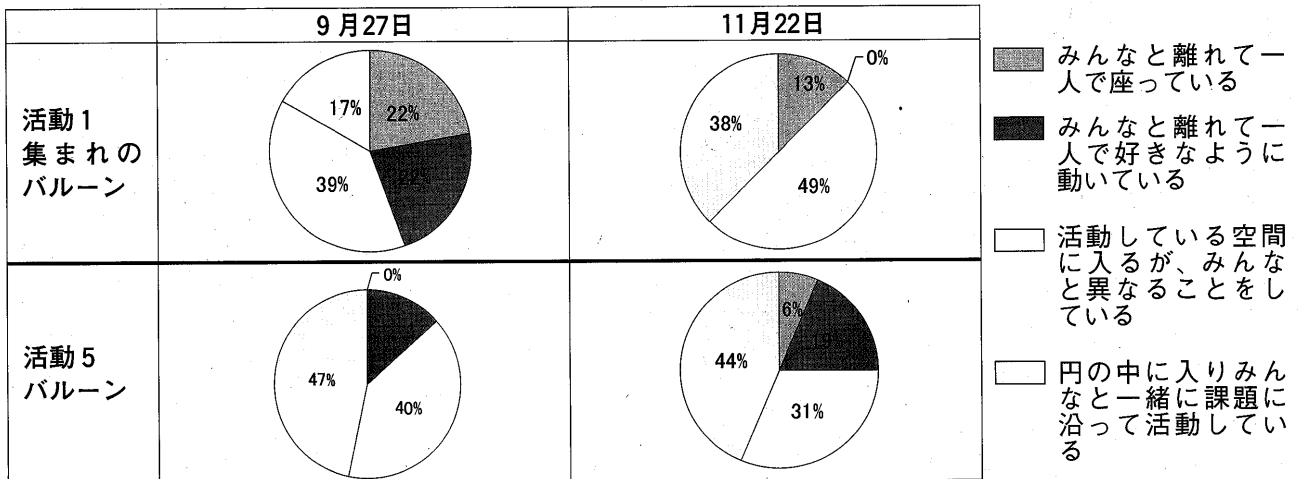


図1より次のことがわかる。活動1：集まれのバルーンでは、活動空間にいる生徒は、9月は約5割だったが11月は約9割にまで増えている。このことから、活動1で集まってくる生徒が増えたことがわかる。円の中に入り課題に沿って活動している生徒も約2割から4割に倍増した。

活動5：バルーンでは、9月に比べ活動の空間に入っている生徒の数が減ってはいるが、どちらも75%以上で多い。また、11月に一人で座っている生徒も無関心というわけではなく活動のほうを見て笑ったり、じっくりみたりしていることを補足しておきたい。

(2) 子どもたちがかかわった相手の変化

全体的に9月は、まだ教師と活動しているか、一人で活動している生徒が多かった（表1参照）。11月になるとかかわっている人の数が増えてきている。そして、子ども同士で活動している生徒も出てきている。日頃、教師とのかかわりが多かったD男G男だが、A子D男G男は、ほぼ毎回子ども同士の3人組で活動していた。C子は人とのかかわりが多く、教師と毎回ペアを組んでいるが、友だちとのかかわりも見られるようになった。C子とK子は教師を介して一緒に活動していることが多い。

表1 ムーブでかかわった人

		9月6日	10月25日	11月1日	11月22日
1年生	A子	D男	D男・G男	D男・G男	D男・G男
	B男	HT	ST	ST・O男	L子
		AT	KT・K子	KT・M男・K子	E男・K子
	D男	A子	A子・G男	A子・G男	A子・G男
	E男	ST	OT	OT	C子・KT
	F男		HT・KT	OT	
2年生	G男		D男・A子	D男・A子	D男・A子
	H男			NT	ST
	I子			AT・L子・P男	AT
	J子	実習生	KT・AT	KT・AT	
	L子	KT		AT・P男・I子	B男
3年生	M男			KT・C子・P男	
	N男		NT		NT
	O男			ST・B男	P男・OT
	P男	OT	OT	M男・J子・L子	O男・OT
	Q男	NT			
	R男				

*Tは指導者 *網かけは、友だちとのかかわりが多く見られた生徒

また、ムーブで見られた生徒同士のかかわりが日常生活でも見られるか教師6名に尋ねたところ、日常生活では見られない、もしくはあまり見られない生徒同士のかかわりが、ムーブで9組も見られたことがわかった。(表2参照) 更に、B男、L子、O男、K子、P男は、ムーブで新しいかかわりが2人以上見られ、今までかかわったことのない友だちともかかわることができ、かかわる力が育ったのではないかと考えられる。

表2 ムーブでかかわりが見られた生徒の日常生活でのかかわりとの比較

ムーブで見られた生徒同士のペア	○数	△数	×数	ペア(*)	ムーブで見られた生徒同士のペア	○数	△数	×数	ペア(*)	ムーブで見られた生徒同士のペア	○数	△数	×数	ペア(*)	
															日常生活でのかかわり
A子	D男	5	1		D男	G男	2	3	1	L子	H男	6			
	G男	5	1			M男	1	4	1		I子	3	2	1	
B男	L子		2	4	①	K子	E男		1	5	③	J子	5	1	
	O男			6	②		I子	1	4	1	N男		4	2	⑤
C子	E男	2	4		P男	J子	4	2		I子		0	6	⑦	
	M男	1	4	1		L子	5	1		J子		0	6	⑧	
	K子	4	2			O男		1	5	④	O男	2	3	1	
	L子	6				P男	1		5	⑤					

【教師から見た日常生活での生徒のかかわり】

- ：この2人が一緒にいる所はよく見たことがある
- △：この2人が一緒にいる所は見たことがある
- ×：この2人が一緒にいる所は見たことがない

網かけは、日常あまり一緒にいることのない生徒がムーブでかかわりをもったペア①～⑨

- ① B男とL子 ② B男とO男 ③ E男とK子
- ④ O男とK子 ⑤ L子とN男 ⑥ L子とP男
- ⑦ I子とP男 ⑧ P男とJ子 ⑨ K子とP男

(3) 指導者からみた子どもの変化について (記述式アンケートのまとめ)

9月当初

- ・活動自体に慣れていなく1人でいたり教師と一緒にいてもただくっついていたりしていた
- ・何が始まるか期待している子どももいた
- ・マイペースに取り組んでいた
- ・授業の流れにのれず誘ってもすぐ離れていく
- ・1学期から取り組んでいたバルーンを一番やりたがっているようにみえる
- ・子どもたちが集まらないこともないから、出だしとしてはこれでいい
- ・見ていて心配だった

12月現在 (〃 は、人とのかかわりに関係ある箇所)

- ・H男と一緒に活動したら、H男は私の動きに合わせてようとしていて、私もH男と一緒に活動できたのは楽しかった
- ・N男が私と手をつなぎながら、向き合って一緒に歩き、N男の歩くリズムを感じられて面白かった
- ・N男が相手とかかわりながら動くのを初めて見たのでとても嬉しかった
- ・やることをしっかり理解し自ら進んで取り組む生徒が増えてきている
- ・子どもたちの活動への参加が増えて少しまとまってきたような印象がある
- ・積み重ねの成果を感じる
- ・何をしているかわからない生徒はあまりいなく、友だちと誘い合って取り組む生徒も増えてきた
- ・集団に入れていない生徒も音楽を聴いたり、友だちの様子を見たりして楽しんでいるように感じる
- ・楽しんで張りきっている子、雰囲気に乗ったり乗せられたりしている子、マイペースだけど何となく気になっている子、誘ってもすぐに離れることが少なくなった子、何をやるのかが少しわかってきているように思う
- ・回を重ねるごとにバルーンに集まる人数が増えてきている
- ・バルーンで子ども、教師、全員が一体感を感じることができとても貴重な時間だと思う
- ・1年生のC子がとてもいきいきと自信をもって取り組んでいると思う
- ・他の活動では、集団活動への参加が難しい、3年生Q男、2年生H男とL子もバルーンを持って一緒に参加していたのがよかった
- ・C子とK子の意欲的な姿が目立っており、活動を盛り上げてくれている

最初は、教師の後についていたり、一人で歩いていたり、どうしてよいのかわからない子どもが多かったが、教師とかかわりながら一緒に活動を積み重ねていくうちに、教師を見たり、繰り返した経験から意欲的に参加できる子どもが多くなった。日頃、集団活動に参加することが苦手なH男とL子だが、この活動には集団に入り活動できるようになった。また、集団で活動できるまでに至らなかった子どもも、活動している空間に入ることができるようになり、活動している空間まで入るに至らなかった子どもも、周りの人の様子を見たり自分なりに動いたりして活動に参加するようになってきた。



バルーンの活動で中に入ったり動かしたりしている様子



ムーブの活動で友だちや教師とかかわる様子

(4) 考察

9月には活動を理解できず自分から動けなかった子どもたちが、ムーブで教師や友だち

とかかわり、バルーンでみんなと一緒に活動することの楽しさを味わったことで活動を重ねることができ、その経験から見通しをもち、周囲の人を見て意欲的に参加するようになったと思われる。集団に入っていない子どもも、自分なりに活動に参加するようになってきた。子ども同士のかかわりも増え、以前と違い教師とかかわっている中でも相手を意識し意欲的に活動している。

集団への参加率も倍増し、他の活動では参加が難しかったり、参加するまでに時間がかかったりする生徒も数人参加できるようになってきている。

また、この活動でほぼ毎回一緒に活動するようになったC子とK子は、日常生活でもお互いを意識し仲良く手をつないだりお互い駆け寄って挨拶したり交友が深まっている。A子D男G男は、日常生活でも声をかけ仲良く過ごすことが多い。この活動が何らかの影響があったことも推測される。このような人とのつながりが授業内だけではなく、日常の生活にも波及していくことを願っている。

6. 「バルーン&ムーブ」から広がった授業以外の様子

- ・ 9月より：F男は、この体育館にくるとバルーンを見つけ引き張り出し教師に見せ、やりたい気持ちが表れていた。
- ・ 11月中旬：C子はクラスに来ている学生と散歩に出かけている時、手をつないで、話したり、歌ったりしていたが、自分からスキップやギャロップをし、誘いかけて交流を深めていた。
- ・ 11月中旬：F男をはじめ数名がフリーデイで自主的にバルーンを取り出し笑顔で取り組んだ。
- ・ 11月下旬～12月：B男が毎日のように昼休みバルーンを体育館まで笑顔で運ぶようになった。しかし、担任が広げてバルーンを揺らしても触るわけではない。
- ・ 12月上旬：L子が「ムーブどう？」の問いかけに「おもしろいよ」と答えた。



バルーンの入ったビニール袋を運ぶB男

7. おわりに

本校の子どもたちは、他者とコミュニケーションをうまくとりにくい状況の中で生活している。しかし、人は誰でも他者とかかわりながら過ごしている。だから他者との通じ合いを実感しながら成長して欲しいと考えている。人とかかわる喜びを経験し、いろいろな人と触れ合いながら豊かな時間を過ごせるようになればと思ってこの活動に取り組んだ。バルーン&ムーブの活動で、教師や友だちとかかわる姿が増えてきたことは喜ばしい変化であり、今後さらに活動を工夫して取り組んでいきたい。

人と人がかかわるとき、その根底に生きた人間同士の心のこもった生き生きとした対人関係があり、「伝えたい」「伝えて欲しい」という気持ちが両者に一致して存在していることこそが重要なのではないか。そこに豊かなコミュニケーションが成立するはずである。更には、五感を通して人と人との身体が響きあう体験を積み重ねることが大切なのではないだろうか。このようなダンス活動は、他者と豊かにかかわる体験ができる一活動であると改めて考えている。

また、ここで味わった人とかかわる喜びをもとに、今後も身近な仲間や家族とかかわり合いながら、さまざまな活動を楽しんでいくことにつながって欲しい。将来的にも、社会のさまざまな場所で仲間とつながりながら豊かな人生を過ごすことを期待している。